



2年かけて

あまごにとって、最適な天竜の「水」

「だいたい、あまごの養殖ってのは、1年で出荷するんだ。でもね、ここでは2年かけて世に出でいく。だから、おれたちの愛情がたっぷりなんだよね」

そう語るのは、もうここで20年もあまごの養殖をしている、清水さん、鈴木さん。小雨が降る中、長靴を履いた2人は、今日もあまごの様子を心配そうに見に来ます。

4人のメンバーで今年も、およそ4万個の卵をふ化させました。その中で、順調に生育するのは、1万個くらいだとか。「ちょっとしたことで、ダメになっちゃう。それが、汚れなのか、温度なんか。原因はさまざまだね」2年の間には、数々の困難が待ち受けているのです。

暑い天竜区の夏

水も大事、でも「楽しさ」はもっと大事

今年の夏も、とても暑かった天竜区。ここあまごたちも、がんばってこの夏を乗り越えてきました。「水温が15度を超えると、伝染病にかかりやすくなるんだよね」

5つある水槽を、毎日欠かさず見守ってきました。水温が上がり、病気が一気に広がってしま

います。「水温、水の量には神経を使うよね。な

んとか、この夏はよかつたけど、いつだつたかな

う、何年か前には全滅してしまってね。かわいそ

うだったな」つらい思い出も語ってくれました。

手間がかかり、気も使い、しかも、儲かりもない。でも、どうして、皆さんは続けているのでしょうか？そんな愚問を投げかけてみました。「あはは、そうだよな。でもね、みんな楽しそうにやっているんだよ。腰や肩や、みんなどこかしら痛いんだけど。最終的に、出荷するのは9千匹くらいかな。いろいろな所へね。その時に、いいアマゴだね、とか、きれいだね、とか喜んでもらえる。その時は今までの苦労が、一気に吹き飛ぶよね」

この冬、また4万個の卵をふ化させる皆さん。「腰は痛いし、指先は冷たいし、ほんと割に合わんなど…でも、やっぱり笑顔なんですよね。

暮らしが見える。感じる体温。
Tenryu + Plus

あまごにとって水は大事、でも「楽しさ」はもっと大事。

てんりゅう暮らしの見本帖

「あまごの養殖をする人」